

令和7年度 学校評価報告書

園名	三田市立認定こども園みつば幼稚園
----	------------------

1 教育目標

『”心の軸”と”体の軸”をしなやかに育て、 子どもの「生きる力」の基礎を育成する』
・心身ともに健やかで、明るく元気な子
・よく考え、工夫してあそぶ子
・自分の思いをのびのびと表現する子
・やさしく、思いやりのある子

2 重点目標

1. 健やかな心と体の育成
2. 共主体の保育の推進
3. 小学校との連携、接続の推進
4. 子育て支援の充実
5. 家庭、地域との連携の深化

3 自己評価結果

分野領域	評価項目	幼稚園の取組状況・改善の方策	4 学校関係者評価
教育課程・指導	・幼児の興味や関心に基づいた多様な直接体験を工夫し、個々の幼児の自信や意欲を高め、主体的に活動する力を育む保育を創造する。 ・職員は一人一人の発達を理解し、個に応じた支援を組織的に行い、自立に向かう力を育む。 ・幼稚園と小学校との連携を図り、互いの取り組みや教育に対する理解を深め、就学を見据えたカリキュラムの推進を図る。	・職員間のコミュニケーションツールとして“みつばコミュ”、“おひさまコミュ”を行い、教育時間と保育時間の幼児の姿を多面的に捉え、幼児理解に努めた。また、幼児の興味・関心に基づいた環境構成につなげることができた。 ・幼児期の教育と小学校教育をつなぐ架け橋期のカリキュラムを作成した。今後は、カリキュラムを活用し、小学校と一緒に検討し、見直しをするなど、カリキュラムの充実を図りたい。	職員間の連携が工夫され、一人一人の幼児を理解しようと努められている。今後も就学先と細やかに連携をとり、地域の小学校へとこどもの育ちをつないでいてほしい。
危機管理	・防犯・防災マニュアルの徹底と災害等の非常事態における対応について、計画的、継続的な取り組みを行う。	・月1回の避難訓練を実施し、命を守る行動を定着させるなど安全教育に努めた。また、三田警察署の職員を招き、不審者侵入時における訓練を実施し、初動対応、幼児の安全確保等について研修を行った。	今後も様々な状況を想定し、こどもの安全を守る取り組み(避難場所・経路の確認等)を進めていてほしい。
子育て支援	・子育て支援事業への参加者が増えるよう周知の方法を工夫するとともに、内容の充実を図る。	・親子による製作活動や歌やダンス活動、定期的な発育測定のお話を設けるなど内容を工夫することによって、継続して参加する人数が増加した。今後も内容の充実を図っていきたい。	地域の中に安心して集える場があることがうれしい。保護者も子育てが楽しくなるような活動を継続して行ってほしい。
家庭との連携	・保護者や地域との連携を深め、協同して幼児の育ちを支えられるよう、園の取り組みや幼児の育ちを具体的に分かりやすく発信する。	・園の活動内容や幼児の様子を、アプリを通じてタイムリーに配信することができた。 ・幼児が主体的に取り組む交流となるよう地域の方と事前に協議し、協力を得て進めることができた。	アプリの配信だけに頼らず、保護者同士の会話が生まれるような伝え方の工夫も必要ではないか。
研究・研修	・幼児の姿を多面的に捉え、幼児理解を深めるとともに、育ちをつなぐ教師の援助の在り方を探る。 ・年間計画に基づいた研修を積み上げ、研究の成果を分かりやすく発信する。	・年間計画に基づき、定期的な園内研修を積み上げることで、幼児の育ちを共通理解し、環境構成につなげることができた。また三田市立幼稚園・こども園教育研究会において公開保育、研究発表を行った。	こどもが考え、相談し、夢中になって遊ぶ姿を見ることができた。行事についても自分たちで考え、主体的に取り組めるような支援がなされていたように思う。

(別紙様式 2)

5 総合的な評価結果

・職員同士のコミュニケーションツールを工夫したことで幼児理解が深まり、すべての職員が連携し、一貫した援助や支援を行い、個々の幼児の育ちにつなげることができた。また地域とのつながりを深めることにより、園の教育方針を理解いただき、協力を得ながら、幼児が主体の交流や行事を行うことができた。
園歌作成のプロセスを大切にし、保護者や地域の皆さんの幼稚園や園児への願いがこもった園歌を完成させることができた。

6 総合的な学校関係者評価

みつば幼稚園のこどもたちの姿や風景が目に浮かぶような園歌ができた。作成の過程を大切に考え、多くの保護者が携わってできた園歌は、みんなに愛され、歌い継がれていくだろう。開園から 2 年がたち、地域とのつながりも深まり、地域から愛される理想の園になってきているのを実感する。